

平成26年度第1回 高砂市文化振興審議会

日 時 平成26年9月5日(金) 15:00～
場 所 高砂市役所南庁舎5階 大会議室

出席委員	会 長	田端 和彦	委 員	唐津 哲男
	副 会 長	三井 隆司	委 員	高橋 賢吉
	委 員	岩見 一美	委 員	前田 栄一
	委 員	渡邊 紀子	委 員	森本 幸吉
欠席委員	委 員	松井美智代	委 員	松本 克英

出席事務局職員

市 長	登 幸人
健康文化部長	橋本 保正
健康文化部 くらしと文化室長	猪子 真一
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課長	東野 哲也
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課主幹	福原 裕子
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課係長	前川 吉也
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課主任	中谷 悟史
教育部教育推進室生涯学習課長	岡田 敏弘

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 報 告
 - (1) 平成25年度事業結果報告
 - (2) 平成26年度事業経過報告
- 4 議 題
 - (1) 文化施策に関する市民アンケートについて(案)
- 5 そ の 他
 - (1) 今後のスケジュール
- 6 閉 会

(午後 3時00分 開会)

○事務局

先に資料の確認をお願いいたします。

(資料確認)

○事務局

定刻になりましたので、ただいまより平成26年度高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてでございますが、高砂市文化振興審議会の運営に関する規定に基づき、公開とさせていただいておりますが、本日、傍聴者の方はおられません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

本日、松井委員、松本委員は欠席との連絡がございました。

先ほど資料の確認は終わりましたので、次第により進行いたしますので、よろしくをお願いいたします。

まず、開会に当たりまして、市長よりご挨拶申し上げます。

(市長 あいさつ)

○事務局

ありがとうございました。

ここで、市長は所用のため退席とさせていただきます。

ここで、オープニングの謡曲「高砂」を合唱していただきたいと思います。

(謡曲「高砂」合唱)

○事務局

ありがとうございました。

引き続き、会長よりご挨拶をお願いいたします。

○会長

先ほど、市長のほうからお話いただきまして、今日の議題のことも含めてお話をいただきまして、特に文化というものがなかなか票に結びつかないというのは、ちょっと指摘としては厳しいなと思いついておりましたけれども、でも、ある意味それは文化というのは当たり前でなきゃいけないというふうなことでありますし、ある意味文化をアイデンティティにしなければならぬほど追い詰められていないとも言えるかもしれません。

なぜこんな話をするかといいますと、昨日か一昨日に新しく安倍政権の陣容が発表されて、石破氏が地方の関係の担当大臣ということになると。それは何を意味す

るかと言うと、地方重視というところの意味があるわけなのですが、姫路市を中心とする地方中枢都市構想のようなものもあって、そうしてくるとじゃあその地域、地域が例えば中枢のある都市を中心にまとまりなさいよという国の方針の中で、じゃあ我が高砂はどういうふうな特徴を持つのかというようなことが、もしかしたら今後議論として出てくるのかな。先ほど、票にならないとおっしゃったけど、もしかしたら票になる時代が来るのかな。つまり、高砂の特徴はこうですよということを言わなければならなくなる時代がもしかしたらくるのかな。これは、いいことなのか、悪いことなのかというのは、先ほどの市長のお話し聞きながらちょっと考えておりました。

謡曲「高砂」がある町ですよということを言わなければ、高砂という町がまとまらなくなってしまうというような時代が来てしまうのだろうか。あるいはそれが埋没してしまう時代が来てしまうんだらうかということのを少し考えながら今日市長の話を聞いていたという次第でございます。

なにはともあれ、地方の文化というものを、このままいくと人口が減少する中でいきますと、維持するのが難しいというのは、これは実は国全体でも課題の一つでございます。実際に、消えてしまった地方文化というのは幾つか言われているようなことであります。

そうした中で、先ほど市長からありましたように、人づくり、環境づくりといったことをやはりベースとしながら、地方の文化というのを維持していかなければいけないということ。来週は万灯祭いうのもありますし、それから、先ほど副会長の話ですとテレビでも高砂を取り上げてくれるということでございますので、そうした環境などを整える舞台というふうなところありますので、そうしたものをこの審議会通して検証しつつ、さらに新しい方向性なり、新しいものを考えていきたいというふうに思いますので、忌憚のない意見をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○事務局

本日の会議は出席8名、欠席2名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることを報告いたしまして、3の報告に移ります。

では、今後の議事進行は会長をお願いいたします。

○会長

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。

報告の1番、報告の2番でございます。平成25年度の事業結果報告と平成26年度の事業経過報告でございます。

これ、関連するということもありますので、あわせてご報告をいただきまして、その後皆様のご質問あるいはご意見を賜りたいというふうに思います。

それでは、事務局のほう、平成25年度、平成26年度あわせまして結果と経過のほうをお願いいたします。

○事務局

今日追加資料でお渡ししております平成26年度第1回文化振興審議会資料の各委員からの事前意見という資料をご覧ください。

まず、これについて、委員の皆様からいただいたものを先に説明させていただきたいと思います。意見とか、疑問に思っておられることを、アからカまであげております。

そのうち、イとオについては、学校教育課に先に聞いておりますので、事務局のほうから説明させていただきます。

実施計画書、平成26年度の資料も合わせてみていただいたらいいかと思いますが、実施計画書、平成26年度版の6ページの1-2-1です。

学校教育課、謡曲「高砂」の指導のところで、小中16回とありますけども、小学校何回、中学校何回されているのでしょうかというご質問がありまして、これは小学校10回、中学校6回、これは全小中学校で1回ずつやるということ聞いております。

続きまして、オの同じく学校教育課の質問です。実施計画書の平成26年度版でいきますと、8ページの1-3-1になりますが、芸術鑑賞会、教育美術展、音楽会というのがありまして、平成25年度の決算報告は13万7,050円だったのに、平成26年度の予算がゼロになっているのはどうしてですかというご質問でありましたが、これは学校教育課が間違っていましたということで、予算額14万6,000円計上されておりますので、訂正をお願いしますということでございます。

同じく横長のA3の平成24年、平成25年、平成26年の結果の資料4ページにつきましても、予算額を14万6,000円に、訂正をお願いいたします。

続きまして、残りのア、ウ、エ、カにつきましても、生涯学習課長に説明をお願いいたします。

○事務局

お尋ねの生涯学習課の放課後子ども教室について、予算が413万円となっておりますが、これぐらいなのかというご質問かとは思いますが。

これにつきましては、放課後子ども教室、市の予算の中で全体的な予算をとっています。それで、その際、スタッフの人件費ですとか、それから教室にかかります部屋の借上料とか、そういった部分がございますが、全てが教室内での事業にかかっている金額ではございません。その辺のことをご理解いただきたいなというふうに思います。

それから、次が2-1-3の申義堂と旧入江家の活用についての予算額281万2,000円が表示されてますが、これについても年1回でもいいのかなというご質問かとは思いますが。

これにつきましても、旧入江家、申義堂につきましては、建屋でございまして、セコム等の管理費用とか、上下水道、電話も置いております。そういった電話代とか、そういったものが含まれてございます。また、旧入江家につきましては、住宅管理委託料等がございますが、草刈りをしたりとか、小さな修繕、壊れたところの修繕とかがござい

ます。

そういった形で、全体的な予算がこの経費の中には含まれているわけでご覧いただき、その様に事業費名で予算をあげさせていただいているところがございます。

それから、60周年事業としまして、旧入江家のパンフレットの作成を予定しております、これにつきましては単年度ということで、今年高砂市が60周年にあたりますので、このような形で計上させていただいたところがございます。

施策は違うのですが、同じ内容なのでうまく1箇所で見れないのかというご質問でございますが、この検討も一部で再掲という形で記せるものは表記させていただいております。次に出てくるところは再掲で出てくるのですが、もとのところを見ましたら表記がないので、その点につきましては見やすいように両方に再掲載を記載するとか、対応を考えております。そういうことで今後検討させていただきたいなということ、相談させていただきたいと思っております。

後、見学、パンフレットに関連しまして、見学が少ないようですがということなのですが、旧入江家につきましては、まだ今現在部分的な修復をしております、全体的な建屋の修復が完了してないのでございます。今後に向けまして、そういう実施設計につきまして、どのぐらい費用かかるのかなということに取り組んでいくのですが、今現在のところ、現状の維持のままの状況でございます。

そういった中でどんどん見てくださいというふうなことが、状況としましてはやっていないところです。これは試算ですが、概算で5億円ぐらいかかるのではないかとされているところで、その負担割合が国、県の補助金が2分1であれば市が2分の1になってくるというふうな状況でございます、今の状況の中で一部公開をしているところです。

当然、先ほど言いましたような一部の整備はしております、見れるところを活用していきたいというふうに考えております。この11月にも公開する予定でございます。また、地域の小学生の方々等、見学のときに臨時的に開けて中を見ていただいております。そういったところです。

申義堂につきましては、土日開館をしまして、順次見ていただいているところがございます。

説明は以上でございます。

○事務局

引き続きまして、委員からのご質問は以上でございますが、特に平成26年度事業につきましては、市制60周年ということで記念事業として記念式典とかご当地博、子育て応援フェアなどがもう既に実施されております。また、チラシをお配りしております、万灯祭やしあわせ映画祭、文化連盟の各団体が文化まつり事業も実施していく予定でございます。

それぞれの詳しい説明は省略いたしまして、この実施計画にあげていない事業につい

て説明を加えさせていただきたいと思います。

本日、添付しております市の封筒ですが、このたびデザインを一新しようということで、この機会に文化振興のシンボルになっております謡曲「高砂」を市民だけでなく、市外の方々にもPRすることができたらということで、封筒の裏面に謡曲「高砂」の詩章とあらすじについて印刷をしております。

それともう一つ、地方分権改革事例集という、クリップでとめてある資料を見ていただきたいと思います。

このたび、内閣府の地方分権改革推進室が地方公共団体の事例調査を行いまして、その中で実効性、地域性、先進性、波及性等の観点に立って、特色ある事例として全国から100の事例が出されました。その100の事例が地方分権改革事例100より抜粋と書かれたもので、文化振興条例の制定で、高砂市の例が取り上げられております。

この100事例というのは、主に地方公共団体の職員向けに施策の参考として整理されたものでございまして、地域の特色を活かした行政サービスの展開例として、高砂市の文化振興条例の制定が取り上げられました。

また、この内閣府はこの100事例の中から、国民向けの配布資料ということで、特色ある30事例をさらに選びました。その中にも、高砂市の取り組みが紹介されることになりまして、委員の皆様にはカラーでお渡ししておりますが、写真が載っている「文化振興によるまちづくり」の分でございます。

この30事例の中にも、高砂市の取り組みが紹介されることになった訳ですけれども、この事例の中で、高砂市の文化振興条例、基本方針の制定から現在までの経過、取り組みといったものが簡単にまとめてございます。

こういった事例集に取り上げていただいたというのも、当審議会において委員の皆様に貴重なご意見をいただきながら取り組んできた成果だと思っております。今後も、皆様のお力をお借りしながら、当市もますます文化行政に力を入れていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成25年、平成26年の事業結果、事業経過につきましては、以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

事前に皆様に資料をお送りさせていただいておりました、事前のご質問を中心にお答えいただいたわけなんですけれども、今お気づきの点でも結構でございますし、なかなか書きにくくて書けてないのでここで質問したいということもおありかもしれませんが、いかがでしょうか。ご質問がありましたらお願いします。

○委員

先ほどのこの地方分権改革事例集の100と30に選ばれたこと、これは相当すばらしいことですか。

日本の中で、全部の町の中で100。全部のいろんな取り組みの中の100。文化だ

け違いますね、これ。

○事務局

分権ですから、文化以外も含め、いろいろな事業の中の一つです。

○委員

また、その中の30。

○事務局

はい。

○委員

めちゃくちゃすばらしいこと違うんですか。

○事務局

はい。

○委員

もう一度確認を。何かさらっとおっしゃったから、会長どうなんですか。

○会長

地方分権改革というのは、地方分権そのものが1997年からなんですけど、ずっと進んでおりまして、地方分権のあり方について、政府としては何をしてるかと言うと、こういう事例集を出すというのが主なやり方なんですね。もちろん、その法律としてこういう法律、全国的な法律はあるのですが、具体的なものは事例集を出す。これを参考にしてくださいというのが国の考え方で、これは結構ですから、各自治体の方が見てるわけなんです。

ですから、先ほどおっしゃったように二千数百、日本には自治体ございますけども、その中で選ばれるというのは、そういう意味ではほかの自治体からも注目をされる機会になるかと。

もちろん、こういった種目以外の例えばさまざま分野ごとに事例集というのは出されていまして、それに選ばれたものというのは、大体どの自治体の担当者も見ると言うことですので、そういう意味では確かにほかの自治体から注目される機会にはなるだろうというふうには思います。

○委員

関連ですけど、この地方創生というのでなってますけど、これ相当予算何かまわしてもらえる。

○会長

これに相当予算がもらえるということはちょっとわかりにくい、そういうことはないと思いますけども、地方創生の部分というのは、これからもうちょっと枠組みが決まってくるだろうと思います。

ただ、そこで一つの仕事づくりというのがオープンになっていまして、そういう意味ではこの高砂が文化でまちづくりとか仕事づくりということをもし考えていければ、

チャンスはあるかなというふうに思います。

ですから、そういった文化を生かしていくところをまちづくりだけじゃなくて産業づくりとかいうところにまで連鎖していけば、可能性は十分あるだろうというふうには思っています。

地方創生とか、まだまだこれから、まだ枠組みこれからですので、なかなか答え難いと思うんですけど、いかがですか。

○委員

先ほど生涯学習課のほうからお答えがありましたけど、旧入江家の見学、今日もちょっと曾根の保育園へ行ってきたら、園長が近くやしああいう有名な建物があるのに一遍見学に子どもを連れて行きたいんだけど、どないやろうなって言われたので、先日も文化財のほうの担当の方に言ったら、開けますよと言ってくれはったんやけど、何か個人でやったら難しいと思うんやけど、そういう保育園とか、小学校とか団体やったらええとか、どんな団体やったらええとかいうの、その基準というようなものは何かあるんですか。

○事務局

特段基準とかはないのですが、内容を見ながらということになります、今現在は、曾根小学校のほうもそういう希望があって、町内を回るコースに入りたいと。小学校4年生です。

ですので、保育園の方につきましても、園長先生からそういう希望をいただいて、担当のほうからそういった回答があったと思うんですけども、委員もそういったいろんな交流とかしていただいておりますが、そういった中で、申義堂等などもハイキングコースの途中で寄りたいとか、そういう相談もございます。

○委員

その旧入江家がまだ工事がずっと残って、いろいろ金入れて工事をせんならんとか、玄関入ったところが非常に暗くて、小さい子が入って行ってつまづいたり、そんな照明なんかももっとしたら良いのと違うかなというにもあって、そんな予定とかはないですか。

○事務局

文化財ですので、部分的に変更を行ったり、触れられないということがございます。それと、トイレにつきましても、家屋内のトイレではなしに、公開のときには借上げでトイレのリースをしております。そのような、トイレの問題もありますので、「いつでもはい、いいですよ。」と言っても、どれぐらいの頻度でコースを回るのかとか、その辺も課題があると思います。

○会長

よろしいでしょうか。ほかいかがでしょうか。

平成25年度と平成26年度事業に関連してということでも結構なんですけど。

○委員

この3年間すごく文化スポーツ課さんはすごい頑張ってくられたと思うんです。そして、この高砂市の内部に向かって住民にこの文化ってどういうものかということを中心に広めて行かれたんじゃないだろうかと思うんです。

ですから、今年度からはできるだけその情報を外へ向かって出して行って、外部からこの高砂市に人を呼び込む方向性、そんなふうなことも考えていかないといけないんじゃないだろうかと思っていますけれども、そこらあたりは考えられておられますか。

○会長

この情報発信事業と言いますか、そのあたりについて、もし、委員のご質問に対してお答えいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

情報に関しては、一番最初に実施したアンケートの中でも文化に対する情報が行き届いてないというご意見もございました。そういったことから、イベントがある場合、広報紙に載せることはもちろん、テレビや新聞でお知らせすることもやっております。特に、文化に関するイベント情報をまとめてホームページで紹介することができていなかったのも、文化スポーツ課においても力を入れて取り組んでおります。

ホームページに掲載することで、若い方に見ていただけるようになったり、広報広聴担当でやっておりますFacebookに事業を載せるようになって、それを見た方が参加されることもあります。少しずつではありますが、情報提供に力を入れていきまして、市内だけではなく、市外にも伝えるようにしていきたいと考えております。

○会長

ほかいかがでしょうか。

先ほどの事業、これ事業ベースで考えているので金額については全事業なので、このご質問に対して全事業だということなんですが、特に例えば、先ほどの放課後子どもの部分ですとか、確かに全体の教育などにあたって、文化もこういう形で活用されていますというのはわかるんですが、いかがなんでしょうね、具体的に例えば文化に精通した方を雇用していますとか、何かそういったもうちょっと使った金額の細かいことはわからないまでも、ここへあげられている以上は、例えば学校のクラブ活動への指導者の養成、調整というのがございますね、A3の横長の分でいきますと4ページの1-2-4、上から4番目になります。そこだと、平成25年度の予算で256万円ほど使われています。そこで見ると、運動部4名、文化部7名の指導者を配置したと、こう書かれているわけですが、これは本当に文化振興に役に立つような、運動部も入っていますけれども、運動部、文化部合わせて11名でこの135万円のお金を使われているわけなんですけれども、実際、文化のクラブ活動への活性化に寄与したとか、何かそんなことでもし、これは評価Aになっているわけですが、事業しましたというだけじゃなく、実際どのような事業だったか、もしわかれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

つまり、書かれていて事業ベースですので、全事業で何百万円も使ってます。その中で、こういう文化に関わっているから載せていますということなんですけども、やっぱりせっかくですから具体的にどうだったのかということが、もしわかれば教えていただけないでしょうか。

○事務局

学校担当ではないので、詳しくはわからないんですけど、この文化スポーツにつきましても、現在、クラブ活動の種類は各学校にて隔たりがございます。そういった中で、クラブの指導者がいれば、新しいスポーツの種目ができたりとか、顧問の先生が変わられたら、こっちが新しく出来るということがありますので、そういったことのないようにというふうには思うところでございます。

ご質問のように、その部分でこれが幾らなのかとか、時間的単価はというふうなことをお尋ねなのかなと思うんですけども、目的と成果の中の表現としては、大体こういうふうな形で、もう少し具体的に言えばどういうふうなスポーツ種目ぐらいであればいけるのかなというふうに感じる場所です。詳しい内情はわかりません、申し訳ないです。

○会長

要は何かと言うと、これ評価のところでAとSがありますよね。Aは実施したかどうかということですが、こうして見れば何件予定、予定例えば10件のところを10件やりましたというのがAになるわけ。Sというのは、これによって効果を上げたと書いてる。効果を上げたという以上は、何らかの活動があって、成果を検証するか何かされているわけですから、それをSもAもつけようということですから、何らかのやはり成果があったのかなというのはちょっと感じる。要するに、Aであれば恐らく成果は見込みどおりですよということだと思えるので、何でも成果で評価をされている以上は何らかの結果があったのかなと私は思うわけで、ですから、先ほど申し上げましたように、事業ベースで考えておられますからこういう事業をしましたというふうなお答しかこの表にはつけられないんでしょうけども、やはり評価をされる以上は何か成果があったのかなというところを把握されていけば教えてほしいと、こういうことなので、今日はすぐできないところもあると思いますけども、そういうのが意図だったということでご理解いただければと思います。

○事務局

目標という欄があるんですけども、そこで数値目標があげられるものはなるべく数値をあげております。どうしても数値であげにくいものについては、文章で表現している場合もあると思います。

例えば、集客目標を何人と認定し、何か工夫をしたことによって、その結果予定していた以上の成果があったという場合はSになっています。反対に、その予定していたことが何らかの事情で実現できなかった場合はBになっています。

ただ、相対的にAが多いですが、予定どおりにできたということでAという判定をし

ているんだと思います。また、予定以上の成果が目に見えてありましたら、S評価をつけ易いですが、予定の範囲内ということであればAという判定をしているのではないかと思います。

○会長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。何かご質問とか。

○委員

事業の計画・結果を表に作成していくことによって、昨年度にはこの文化の施策の中には入れてなかったけれども、それぞれ課の中で見直したときに、今年度にこういう施策も文化であったやないかということで、新たにつけ加わったとか事例とか、そういうのがあれば何かうれしいなと思うんですけども、あるかどうか確認していただけますか。

○事務局

見落としていたというか、それが文化だと気づけなかったようなところもありまして、例えば総務のほうで昼休みに童謡とか唱歌というものを流しています。それも文化の一つということで、今回プラスして入れ込みました。

あと、電話の待ち受けの音楽として、佐々木すぐるの「月の沙漠」を流していますが、これも市民の方に聞いていただけるように期待して実施しているので、それも文化事業ということで取り上げさせていただきました。

普段の事業の中でも文化に関することを見つけ出していこうという気持ちで作成しております。

○会長

ほかはいかがでしょう。

何かご質問とかご意見とか。

○委員

この横長の分なんですけど、ページ11に市民ギャラリーなんかの紹介の欄があるんです。それがBなんです。多分、これ高砂本庁舎、中へ入ってすぐのところですよ。あそこはすごくいい場所なので、これBをAに上げることをしていただけたらいいなと思ったんですけども、いかがですか。

○事務局

市民ギャラリーは市民活動推進課が担当ですが、市民ギャラリーの活用の件もありますが、高砂市内では、ほかにも展示をする場所があります。しかしながら、市民にお知らせしているギャラリーは限られているので、もっとたくさん調査をしたいというのが目標でしたが、それができなかったということでBにしております。

○委員

そうですね。調査していただいて、その結果を今度また教えていただけたらうれしいですね。

○会長

他いかがでしょうか。何かご質問とか。ご意見でも結構ですけど。

平成26年度の事業につきまして、先ほどありましたように、60周年事業というのが一つ大きな進行中のものがございますけども、今この進行しているものにつきまして、何かご意見とか、ご自身のご存じのないように見た視点でも結構でございますけど、いかがでしょうか。

○委員

これもさっきさらっと言われた、この封筒ですね。これすばらしいですね。

それで、商工会議所の電話の待ち受けは今、謡曲「高砂」を流してまして、実は先般、商工会議所の全国の大会の近畿の大会がありまして、そのとき日本商工会議所会頭が来られて、京都で会ったんですけども、たまたま私が兵庫県の代表で地域社会でどう取り組んでいるかということで会議所活動発表する機会を得まして、そのときに謡曲「高砂」をその場で謡いまして、やりましたら大喝さいを受けまして、その後の懇親会も高砂デイみたいになりまして、皆さん謡曲「高砂」のことに對してワンコメント入れていただいて、挨拶をしていただいて、京都の会頭も自分の挨拶でもう一遍自分が謡曲、能楽のクラブやってたということで、また謡曲「高砂」を自分で謡われて、そういうような機会を得まして、それを見られてた神戸の商工会議所の会頭は、今度兵庫県の県大会もあるから、また頑張るねと言われて、また兵庫の大会でまた今度は謡曲「高砂」のCDを全会議所に配りまして、県会の議長がまたそれを見て、こんないいふるさとに、兵庫県にこんないいものがあつたんだと言って、また高砂デイになっちゃいまして、私何が言いたいかいうたら、これほどの財産が、50代以上まであるんですね。これ多分40代から下は、恐らくそれを何ぼ言っても何のことやということですので、これもさらっと言われまじけど、これなんかすごくいいことだと思ひ、やっぱりいかにしてこの謡曲「高砂」を後世に残していくかということにつきましては、ちょっとこの今の事業の形だけじゃなしに、もっともつといろいろ取り組んでいただけたら、その反響効果はすごいものがあるということで、ちょっとご報告とご依頼をしておきたいと思ひます。

○会長

ありがとうございました。

最初におっしゃった情報発信と絡まる問題でございます。一つは、この文化というのは先ほど私がご挨拶でも申し上げた、地域のアイデンティティというのは当然あるんですけども、それから、地域創生になるとかかわるのかという話になってくると、いかに産業とかに結びつける、要するに集客に結びつけるということになりますので、そうすると情報発信という議論と、その情報発信の一番知られているものである謡曲「高砂」をどう活用していくのかという、恐らくそれが多分議論していかなきゃいけないのかなというふうに思ひますので、もし事務局が例えば平成27年度に向けてみたいなところで、先ほどのご提案について何かございましたらお願いできますでしょうか。

○事務局

平成27年度については、文化スポーツ課の事業の「高砂学」において新たな取組をどんどん増やしていきたいと思っております。また、先ほど言いました地方分権に取り上げられた一つの要因として、高砂学というのが市民主体でされるようになったことが新たなことでございます。今、市民講師の方に講演をお願いしておりますが、その市民講師の会「高砂ニコニコ会」がつくられまして、その会で運営していきましようというように変わってきました。もともと行政が始めたことが、市民の先生方が自らいろんな活動をされており、大変うれしく思っています。今後そういった動きが出ている中で、行政主体の事業ではなく、市民主体の事業をもっと増やしていければ事業も幅広いものになっていくと思います。特に情報発信面では市民の力を借りるのが一番だと考えています。

○会長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

ほか何かご意見、大体よろしいでしょうか。

○委員

先ほどから高砂学とか、そういうふうなことで話が出ております。私も数回参加して見学させていただいたというような経験がございますけど、やはりああいうふうなことはずっと、もうちょっとつき詰めていうんですか、各町にいろんなこと、歴史があるんでしょうから、継続してずっとやっていくのが一番地道な高砂市内の活動であると思いますし、それで今までから高砂市というのは、ほんまに見捨てられたというか、ほかから全然高砂市がどんどん、どんな存在かということが知られてないということがずっと私もほとんど全国に旅行してきましたけど知られてない。

私が旅行行ったときに、どこから来たんだというようなことで話、私は兵庫県の高砂から来たんですよって話とるんですが、私の中で高砂にはこういうふうな立派な謡がある、今の謡曲ですよ。私は皆さん結婚式された経験があると思いますけど、この謡の中で高砂やといった謡に聞き覚えがあるはずですよ。そんな地名の立派なところでして、尉と姥という形で行く末までも夫婦で世の中行く末なれど、高砂市内は大体尉と姥として世の中に出てきて、幸福を、幸せを広めたというようなかたちのりっぱなところですので、高砂ということは言ったんですけど、私もやっぱりどっか出て行ったときには、そういうふうな資料一つでも私は持っていくべきだったなと今になって手おくれかなと思いますけど、やっぱり一つの謡曲のことについても、そういうふうな、めでたいことの資料をいつも携えてでも、ぽっと出たときには私はここの者で、こういうふうなものがあるので、今回あるんですよって、やはりそれはやっていくべきかなと今もやってこなかったということに対して、私は恥じる次第でございます。

前々から私もずっと思うんですけども、高砂市内にはやはり他市からの人の集まることがない。それで、姫路は盛んに人を、姫路の町ですけど、あそこへ人を集めてい

ろんなイベントとかのかたちでやって人集める、夜にしろ、昼間にしろ、いろんな催し物がありますよね。

加古川市はあないして頑張ってるっていっとります。そしたら、高砂以外の方が加古川、姫路の人がわざわざ高砂のイベントやっとなるから、参加しようか、見に行こうかというような形のものがないと。この前、食品の博覧会はしましたけど、B級のね。ああいうのでたくさん来とったと。私は聞いたのが遅かったので、すごい人が集まっておった。あれも一つの手段ですね。高砂市を広める手段ですね。

やっぱりいろんな面で知ってもらうことが大事だな。高砂市内ばかりで宣伝しとって、市民知るとると言いながら知らんぷりばかりしとると。そんなことありますので、もうちょっと門口を広げて知ってもらうことに努力せんといかんか、そういうふうなことを思います。

○委員

私ごとですけれども、今年の12月21日にじょうとんばホールのほうで市制60周年を記念いたしまして、高砂演奏連盟としてコンサートをいたします。地域のホラ貝をやっていらっしゃる方、それから和太鼓をやっていらっしゃる方に出させていただきますが、新たに謡曲「高砂」の遠くから船がやってきてということで、そういうテーマに基づいて新曲を書きいただきました。それをピアノと尺八のコラボレーションで日本舞踊の中に入れてまして、能衣装、西宮の方ですが能衣装をつくっておられる方の衣装も飾ります。

あと、この播州地域と言いますか、ここらあたりに伝わる祭り、祭りをテーマに書いてほしいと。また、その作曲家がたつの市御津町出身の方でして書いていただいております。それを演奏するのが高砂中学校、それから高砂南高校、そして合唱に入るのが播磨南高校、そして姫路飾西高校、香寺高校がやってきてくれます。

若い子たちにも高砂というものについて意識を持ってもらいたいなというふうなところにおいて、今度高砂の14の神社、天満宮、各曲に名前をつけていただきまして、それを披露いたします。

前奏曲と後1曲、最後に協奏曲というのをつけて、全部で16曲ある作品をマリimbaと合唱と吹奏楽という形で披露いたします。

播磨町、そして加古川市、そして高砂市、姫路市、それからたつの市の各市と教育委員会のほうに後援をお願いいたしまして、後援してくださるところは明らかになったところと、後返事待ちのところもございます。それからチケットを置いてくださるところ、今手配中なんですけれども、そういうふうな形で宣伝はしてまいりたいと思うんです。

いぎチラシをつくるとしたときに、そのチラシをお願いした方が大阪の方なんですけど、長く東京にいらして30歳前後の方なんですけれども、例えば私が東京に行きました折には、高砂というのはあの有名な高砂ですかと言われる、結構、結婚式でも高砂は演奏されてきたので、歌われてきたので、高砂というとわかっていただけるものかなという

ふうには意識は持っておりました。

全国的に高砂という地名はいろんなところがありまして、高砂と言うだけで割とおめでたいというイメージは持ってたんですね。ところが、そのチラシをつくられる方、たまたまだったのかもしれませんが、最近では結婚式というものをしないカップルもたくさんあります。高砂イコールおめでたいともならないという、そのチラシをつくるイメージということに関して、そこで私どももびっくりしたんですが、高砂はおめでたいという感覚が全然なくていらっしゃる。

自分はめでたい、めでたいと思ってるかもしれないけど、こっちには全然関係ないというような感覚で、調べてくださいと逆にこちらが知ってくださいというふうに言ったんですけれども、ですから、そこらあたりで年齢的に、先ほど委員もおっしゃいましたけど、50とか40そこまではわかってる。そうですね、もう30ぐらいになると全然やっぱり意識が違うなというのを実感いたしました。

だから、そのあたりやはりどういうふうに伝えていくのかな、どういうふうにまた知ってもらえるかなという、我々演奏しかできませんので、音楽の中で伝えていきたいなどは思っているんですけれども、実際問題高砂市の中でももうちょっとそのあたりを力入れていかないといけないんじゃないかなと。ご年配の方はもちろん歌もご存じですし、この地をわかってくださっている。

だから、チラシの浜、松、まず持ってこられたのがめでたいということで竹やぶでチラシをつくってくださったんですね。確かに、おっしゃるには竹をめでたいと感じる人もあるだろうと。確かに、松竹梅でめでたいけど、この地域とはちょっと違う。

だから、やはりイメージを伝えていく。それでもってデザイナーのイメージを膨らませてチラシもつくっていただく。そういうふうな働きかけというのも大事なのかなと新たに思わされた次第でございます。

○会長

どうもありがとうございました。

幾つかご指摘いただいたところで、まず1点目は、自分たち市民のほうからまずきちんと理解をする、意識を持って理解をしなければいけないという点。そして、対外発信に当たっては、やはり世代間の差もありますから、それを踏まえたような対外発信もあるだろうと。

例えば、どうしても尉と姥からの意見が出ているわけですが、多分これがなかなか伝わらない可能性も出てくるので、どういうふうイメージを伝えていくのかということですね。

そして、今の活動として新曲という形で、これも要は新しくアレンジする形で情報発信をしているという、こういう事例も出していただいたというふうに思います。

どうもありがとうございました。

○委員

横長の10ページの一番上に、ここに子育て支援室ということで、県民交流広場のここに紹介をしていただいているんです。非常にありがたいことだな。先ほど来、皆さん方がいろいろご意見を言われている、高砂にはすばらしい文化財、今も市長が言われたように、石の宝殿がもう少しすれば官報に載って国の指定文化財になる。すばらしい都市だと思うんです。

そのすばらしい文化財を持つ高砂市民が、今後もそれをより以上に広めていく人材育成、こういうことでここに書いていただいているんですけれども、米田なかよし広場というところに、見ていただいたらちっぽけなものなんですけれども、幼稚園児が外壁に絵を書いていただいております。それぞれの個性豊かな絵を書いていただいております。中身は毎月変わるんですけれども、絵を書いていただいております。

そういうことで、その絵を一つ一つ見させていただいても、すばらしい能力を持った園児、3歳児から3歳、4歳、5歳園児の絵が展示されるんです。そういう人材が育てなければ、すばらしい高砂に埋もれた文化財になってしまう。忘れられた文化財になってしまう。

こういうことで、人づくりもあわせて高砂、誇れる高砂の中に、まず人がすばらしいんだと、そこに住む人がすばらしいんだと言えるような市民づくりにもここに書いていただいて、これが県民交流広場事業として、平成21年から始まって、ようやく今年度から自主運営で我々が運営しているところなんですけれども、みんなが力を合わせれば人が育っていくんだ、こういうことも文化財の中にはそれを認める人がいなければいけませんので、人を育てるという意味でここに書いていただいたことに感謝を申し上げ、皆さんにご披露しておきたいと思えます。

○会長

どうもありがとうございました。

この文化を持った、文化の配慮を持った方が情報発信ができるような人材になっていくという、私は望ましいと思うんです。例えば、ネイティブのアメリカンの文化的素養を持った方々が、特に60年代アメリカなんかでは文化の発信の担い手になったりしているという、こういったこともあります。

もちろん、先ほど申しましたように、それだけに頼らなきゃいけないとなるとちょっと悲劇ですけども、そうじゃなくて文化的素養を持って、これを発信できる人材を育てていくというのは、多分これから大事でしょうし、先ほど幼稚園児という話も出たわけなんですけども、若い才能を伸ばせるような、それだけのゆとりを持って、余裕がある、それを受け入れられるような市民をつくってきたいという、こういうご意見大変参考になります。

やはり、これアンケートの話にもなるんですけども、文化を狭く考えるんじゃなくて、やっぱり幅広くそれを許容できるような人材がどれだけいるのかというのを、このアン

ケートの中でもこれから明らかにしていきたいなというふうには思っておりますので、委員のお考えなんかもまた参考にさせていただきたいというふうに思います。

○委員

この高砂ですけど、幼稚園のころから聞かせたり、歌ったりしてる。これを何かコンクール化するという、何かそういう案はございませんですか。幼稚園、小学校の部とかいう感じで。

○会長

要は今教えることはあったとしても、それを例えば披露するというか、何かそんなようなことはないのかということですね。

○事務局

まだそのコンクールの話にはなっていないのが現状でございます。

まず、謡う機会をなるべくつくっていく段階かと思います。文化スポーツ課のほうでは、「高砂こども狂言ワークショップ」において保育園、幼稚園の5歳児の子どもたちに1回は謡曲を聞き、仕舞を見ていただいて、「高砂や」をみんなで一緒に謡っています。

あと、学校では「ふるさと高砂学」で小学校5年生、中学校2年生が謡う機会を設けております。あと、今年は文化会館のほうはかなり力を入れてやっているんですけども、「能楽入門」において謡う機会をつくっております。

いろんな場面で、子どもたちが聞く機会、謡う機会を増やしていきましようというのが、今の段階ですので、コンクールまでの話には至っていない状況です。

○会長

今後検討していただきたいということですね。

○委員

今、先ほど幼稚園の話が出たんですけど、どのような形で高砂市はやってるのか、私たちは知らないんですけど、小学校、中学校ぐらいのいろんな学校の中のクラブ活動の中であって、お茶をやってるところもあるし、吹奏楽をやってるグループもあるやろうし、いろんな学校の中の芸能部門というのがありますよね。ブラスバンドやっているところあったら、ジャズやってるところがあったりとか、荒井やったら荒井でも吹奏楽なんかやって、盛んにやっております。一生懸命やっています。夏祭りでも出て行って、あないして吹いて皆さんに聞いていただいている。

だから、そういうふうなことで、高砂市内だけで競うということはいいのか悪いのかわかりませんが、最近テレビでもいろんなチアダンスでも、各市町でやって、それから県大会あって、全国大会あって、それから世界大会まで出て行って行きよって、そういうふうなことで、その中で一生懸命やっているグループというのはあるんですね。

そういうのを活かすためには、そういうふうな市内あげてそういうふうなものを競技会言うたらおかしいんですが、やっぱり力、汗を流して一生懸命皆とグループつくって

仲よく取り組んでいく、その中で苦しいことあるとか、そんなんを発表するというか、競う場所いうか、そういうふうなことが今やってるのか、そういうふうなことはあるんですか。

○事務局

これは商工会議所が中心になって実施されているのですが、謡曲「高砂」普及委員会というのがございまして、そこで、企業のグループであるとか、私たちがやっている高砂学の謡曲編の中でもグループをつくりまして、いろんなグループが参加して発表会をする場というのは設けております。

今年は観月能のときに、高砂神社の新しい能舞台で発表会をいたします。市ではコンクールというようなことは計画できてないのですけれども、商工会議所が中心となってそういう発表会は、一つはあります。

○委員

音楽とかいろんなことに対して、勝つためにやるというスポーツとはちょっと違うところもあって、優勝した、金賞取った、銀賞取ったで、一々一喜一憂するというのもどうかと思うのですが、ただ、本当にそれに向かって子どもたちは一生懸命やるというのも確かなことで、ダンスにしても、いろんなことにしても、高校生、中学生なんか目指して、本当に夏休みもなく一生懸命やりますので、だから広めようと思うのであるならば、やっぱりそこまで徹底してやったらいいと思うし、また、子どもが出場すると言ったら親も一生懸命なりますし、おじいちゃん、おばあちゃんついてきます。応援します。それいけ、みんな歌えと練習しますね。だから、やっぱりそういうふうな盛り上がりというのもいいんじゃないかなと。結果は結果で、金賞や銀賞やいろいろ出ますけれども。

○委員

予算もどこかから何か出るでしょう。

○委員

何か歌いましょうだけでは、もう一つ盛り上がらないような気もして、万灯祭の折なんかでも、それこそもちろんカラオケ大会もあるぐらいですから、高砂大会や謡曲「高砂」大会というのもあってもいいんじゃないかなとは思いますが。

○委員

あのときでも、漫才でもやるステージでもつくって、そこでコーラスグループあるんやったらコーラスやるとか、あるのやったらそんなに邪魔にならんとと思うで、私。

そういうふうな、何かのあれだけやなしに、何かその中にやっぱりつけていくという、そういうふうな形で、人に集まる。

○委員

幼稚園とかそのぐらいのときに、一生懸命、わけわからないけども一生懸命歌ってた。しばらく歌ってなくても、大人になって歌った、歌ったとか、やっぱり小さいときになじんだものというのは、結構一生身についたりなんかしますし。

○委員

結局、私らでも小学校のPTAの中で音楽の好きな旭硝子の人がおって、その人はコーラスをして、それでPTAの連中がずっと20人ほど集まってコーラスを3年ぐらい続けたかな。だから、卒業してもうたから、子ども卒業したら向こうへ行ってもうたから離れましたけど、やっぱりそんな中で多少何年かでもやっといたら、あのコーラスやっとなら、やっぱり聞きなじみの歌もあるし、それからああいうのもいいものだなと思いますけど、果たしてこんなどっかのグループいくなり。

○委員

言葉と一緒に聞きとるの大事なんだけど、何回もやっぱり口から発する高砂や、高砂やというのが違和感なく、臆することなくずっと出てくるという、それは何回も言わないと、謡わないと出てこないかなと思ったりもするんですけど。

○会長

ありがとうございます。

ちょっと詳細はまた計画については、またなかなかここで結論出すのは難しいと思うんですが、しかし、先ほどおっしゃってたように、発表の場というだけでなくコンクールのような形というので一生懸命努力するという機会を持つというのもいい発想ではないかということだと思います。

ちょっと次の議題もごさいますので、提案は突っ込んだ議論はできないんですけども、そういうことも平成27年度以降考えるときにちょっと参考にしたいと思います。

○委員

ちょっと簡単なことだけ教えていただきたいところあります。

市民と在住の外国人の交流事業について、平成27年度から廃止になっていますが、せっかくこういうふうな形で外国人との交流という形ができているのに、事業として平成27年度から廃止ということは、何か理由があったのでしょうか。

○会長

文化スポーツ課の国際交流の部分ですが、いかがですか。

○事務局

これは、ご当地博が今年度1年限りの60周年の記念事業ですので、次の年から廃止と書いております。

ラトローブ市につきましては、いろんな場所で紹介をさせていただいておりまして、国際交流がやっておりますバーベキューであるとか、万灯祭でも紹介をさせていただきます。

現在も、文化会館の事務室横にあります展示コーナーでラトローブ市の紹介をさせていただいております。このご当地博については、今年度限りですが、ほかの場所で引き続き紹介していきたいと思っております。

○会長

ありがとうございました。

ちょっと時間も押しておりますので、次の議事でございますアンケートについて進めたいと思います。

議題でございます。文化施策に関する市民アンケートについてということでございます。

これにつきまして、事務局のほうで事前の意見もいただいているということで、これ合わせて新たな資料をつくっていただいていると思いますので、そこを中心にご説明いただけないでしょうか。

○事務局

アンケートの実施につきましては、文化振興の評価・検証の一つとして、来年度、平成27年度に行いたいと考えておりました、その実施方法、内容については、この審議会でご意見を頂戴して検討していただきたいと考えております。

今回つくった案なんですけれども、まず実施方法でございますが、アンケートの対象者は市内在中の二十歳以上の方ということで、市の人口約10万人としまして、統計学上で400人ぐらいのデータが必要となりますので、回収率50%を見込みまして800人を無作為で選び調査をする予定にしております。

このアンケートにつきましては、事前に委員の皆様から意見をいただきました。その意見をもとにしまして、今日お配りしております資料の2ページ、3ページをご覧ください。

事前に修正をしております。例えばかっこの表示ですが、初め黒いかっこでしてたところを、ご覧のかっこにしたほうがいいんじゃないですかというようなところは直しておりますし、提出の期限は、いつまでにお願いしますという文章にして、一番下のところに提出期限という形で、表示しております。

あと、質問がありまして、アンケートの用紙の5ページのところ、「高砂駒桜杯争奪戦」って何ですかというのがありましたので、かっこで将棋と入れてあります。

あと、一番後ろのほうですが、「アンケートをお答えいただきましてありがとうございました」というような文章を入れておいたらどうですかというご意見がありましたので、入れてあります。

修正箇所は以上ですので、新しいアンケートで見ていただきまして、委員の皆様にご審議していただければと思います。

以上でございます。

○会長

ありがとうございます。

事前に見ていただいていると思います。私も実はこの2週間ほど海外に行ったもの

で、手元に届いたのが遅かったものでざっとしか見てないんですけども、幾つか気づいた点もございますので、それは随時申し上げたいと思います。

既に修正版と言いますか、新しく机上に配付させていただいた分をもとに、またご意見を賜りたいというふうに思いますが、いかがでございましょうか。

先ほど、平成27年度のいつ行うかというのはまだ決まってないんですか。平成27年度中ということでしたが。

○事務局

今年度中にアンケートをつくってしまいまして、6月ぐらいに実施できればと考えております。

○会長

ありがとうございます。

まだ時間はあるようですけども、どうでしょうか。

専門的なことで申し訳ないですけど、1ページの間1なんですけど、これの実は専門用語でダブルバーレルと言って、質問形式としてよくないと言われているものなんですけど、何かというと、鑑賞したり、活動を行ったりというのを二つあげてますよね。鑑賞することには重要だけど活動はしたくないという人はこれ答えられないんです。

後、後ほどの質問の中にも鑑賞と活動とこれ分けて質問されているわけですから、本来この質問というのは、鑑賞する場合と活動する場合と分けて質問しないと、実はダブルバーレルの質問と言ってアンケートではあまりやってはいけないということなので。

○委員

こっち書いたらこっち書けないということですね。

○会長

これはちょっと考え方を、二つに分けていただくほうがよろしいかなというふうに思います。

ほかにもいろいろあるんですけど、ちょっとまず、最初の1番目からいくとそうなので、皆さんもこういった順番で、問2の場合、問3の場合で結構ですので、ちょっと気づいたところ言っていただいたらと思います。

○委員

質問させていただいていたんですが、全般のどこにもあるかと思いますが、この対象者の基本情報とか、こういう市民の文化活動の意識、施設満足度と切ってるんですけど、例えば1ページとか、ほかのページもあるんですけど、それぞれの質問の1番から何番まではこの内容は市民の文化活動認識施設満足度で切っているんですけど、テストであればこういう形でこういうテストやなというので1番何々でいいと思うんですけど、これ市民にアンケートをとるのに、何か満足度は市が把握したい内容がこれであって、これはちょっとどうなのかなと思います。もうちょっと丁寧に聞いている内容を書いたほうがいいんじゃないかということをお私質問してました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

それと1ページ目なんですけど、文化芸術団体に加入している場合ということで書かれているんですけど、例えば字体とかそういうのによって、ここに何かわかりませんけど音楽の何とかと書いて、活動内容書いて、その字を見たら何となく読み取られてしまうというふうにした場合に書かないかもしれないということもあるかなと思うんですけど、それでこれ何で書いてるかというと、多分文化芸術団体に加入してる場合という方は、少し文化については詳しいだろうというようなアンケート結果が出てくるということで書かれてるのかなと思ったんですけども、それであれば、その前に一言聞いて、入ってるのか入っとらへんか。入ってたら書かれる人と書かれへん人おると思うので、一言一文入れたほうがいいのかということも質問に入れてたんですけども、1ページ目はそんな感じですかね。

○会長

これちょっとすいません、このとき、申し訳ないですけども、これアンケートの恐らくそれをどっか業者に依頼することがありませんか。

これ、先ほど委員じゃないですけど、アンケートのつくり方って結構ノウハウがありまして、自治体の職員の方で、前のときは確かつくられていると思うんですけども、先ほどの例えばかっこの置き方、市民の文化活動への意識、施設満足度とこう書いてるけど、例えば普通は業者がもしつくるアンケートであれば、市民の文化活動への意識や施設満足度についてお聞きしますというような書き方を確かにするんですね。

ですから、このあたりで結構実はノウハウの部分で、どういう内容かというのはここで議論はしたいと思うんですけど、実際に例えばこういったものをちゃんとつくっていかうと思うと、ちょっと業者に頼むという手だと思う、これは予算的に難しいですかね。

○事務局

アンケートの作成については予算化してなかったもので、事務局で案を作らせていただいています。

○会長

ですから、例えばもっと言うと回答もそうなんです。恐らくこれ丸つけてください、二つまでと言っても、多分これ三つ、四つ書ける、必ず言われるんです。どうするかというと、例えば普通だったらかっこは四角欄をつくって二つしか四角はいれなくて、四角二つしか入らないようにしとくんです。そうすると、二つしか回答出てこないと思う。これ、結局ノウハウなんです、はっきり申し上げると。

このアンケートのつくり方というのは、先ほどシンクタンクだというのは、これで設けてこれで稼いではるわけですから、例えばそういうところとちょっとご相談するなり、私がつくってもいいんですけど、私もこれまでアンケート何十回もつくってますから、

ノウハウ持ってますから私がつくってもいいんですけども、やっぱりそういうノウハウの部分があるので、内容はこれで議論させていただいて、この内容でよろしいですかとなった後で、実際に例えばこのかっこの大きさはこれでいいかとかなくなってくると、もうこれ本当に細かい議論になってしまいますので、そこら辺をちょっと業者に任せるか何かをちょっと考えていただいたほうが、多分よろしいかなと思います。

先ほど委員がおっしゃっていただいたように、多分これアンケートを見る方とつくる方というのが、どうしてもつくる方の感覚でつくってますから、これ第三者であるというか、業者がつくるときは必ず見る方がつくりましますし、場合によっては事前アンケートなんかを、事前調査なんかをやってみて、これで本当に回答が得られるかどうかの確認をしてくれるんですね。

そこは少しご検討されたほうがいいかなとは思いますが、中身は、内容はこれでいいかとか、こういう内容でほしいかとか、この目的にはこの質問があつてかどうかというのは、多分この場で議論させていただいたほうがいいと思うんですけど、ちょっとアンケート、細かいことはもしかしたらちょっと難しいかなという気はするので、それどうですかね、予算的なものというのは、難しい。

要するに、調査、そういったことを一式含めたアンケート調査を依頼することは難しいですかね。

○事務局

平成27年6月ごろに予定しておりますが、平成27年度中にできれば問題はないと思います。当初6月にしようと思ったのは、総合計画と合わせてというようなことで考えておりましたので、来年度予算を確保できるようでしたらそれも考えたいと思います。

○会長

それは参考の意見です。ご意見、中身について。

○委員

問に対して回答数がすごく多いの、これは順番に見ていっててもしんどいなというのは、すごく感じたんですけども、やはりある程度絞り込んでいってというほうが回答しやすいんじゃないだろうかというのは、すごく思ったんですけども、でも前回にしたものからは、かなり減らしているとおっしゃっているので、そこら辺はどうかなと思うんですけども。

○会長

やっぱり目的と合わせて考えていかなきゃいけないと思うんです。

先ほど、委員が文化芸術団体に加入してるかどうかということを知りたいというのは、恐らく加入されていけば文化芸術に対して同士の深いだろうと、そういうことを知りたいたいんだというふうに、何を知りたいのかということと、この問題が適切であるかという、こういうことだと思います。

その中で、これを知りたいんだしたら、この問いよりもこの問いはなくてもいいよね

というのがあれば削っていけばいいかなというふうに思います。

○委員

このごろは若い子たちなんか盛んにY o u T u b eから音楽なんかとりますし、最初の日常生活の中ですぐれた芸術文化鑑賞したりというのは、もうY o u T u b eからでも結構できるんですね。

後の質問、割とホールに行かなきゃいけないみたいな感じで、重要だとは思って聞いてるけれども、会場には、ホールには行ってないというふうなことも出てくると思うんですね。

最近の傾向、本当にネットでいろいろ鑑賞したりなんかもできますし、そのあたりはどうなのかなとは思いますが。

○会長

要はホールということが前提になっているか、そうすることが前提になってるんだけど、例えばテレビで見るとか、インターネットで見るとかというものも鑑賞ではないかということなんですかね。

○委員

もちろん生で見るほうがいいんですが。

○会長

一番いいのは、それはそうだと思いますが。

このあたりどうですか。意図的なもの、事務局としてそれ意図はどうなんでしょう。やっぱりホールに来ていただくことが文化活動であるという意図をもとに質問されているということなんでしょうか。

○事務局

Y o u T u b eを若い方が多数活用していることなど、うまくアンケート内容に反映できなかったとは思いますが、市としては市の文化施設もありますので、施設の活用がどのようにされているのかということを知りたいというのがあり、そのような表現になってしまっていると思います。

○委員

この質問というか、表のところに高砂市における文化振興についてご意見を伺いますとなってるので、今言われたように市の施設での、問5なんか市の施設での文化芸術活動はとなってるということは、もう市の施設ということに限られてるということなんですけど、文化振興というか、文化でいろんな小劇団がやっているというのは、私も聞きに行ったことあるのは、例えばアトリエコードさんとか小さいところありますよね、そういうところで20人か30人集めて、何か劇をやったり、音楽もやったりとかしてますけど、そういうのも含めての文化活動だと思うので、市だけじゃなくて、質問としてはそういう設問も入れたほうがいいかなと思います。

○委員

逆に大きなホールでのというのはもうごく一部だと思うんですね、上演できるというのは。

○会長

例えば、おっしゃるとおり4ページの5番で、市の施設でと書かれてる文化会館、福祉保健センターで公民館が出てくると、やっぱり大小のホールと位置づけが違いますよね、公民館の位置づけと。そういうのを一緒にされていると、多分確かに何が目的なのかなど。

ですから、おっしゃったように市の施設を使ってるかどうかは目的であれば、それはそれで割り切らなければいけないですし、それから先ほど委員がおっしゃったように、鑑賞する対象が聞きたい目的なのかとか、そこの意図をきちんとやはり、何が意図なのかということが、多分質問の内容とちゃんとリンクしないといけないなと思うので、そこから辺が少し課題かなと思います。

いかがでしょう。ほかに何か。

○委員

このアンケートなんですけども、アンケートで現状を知りたいということと、それから問題を知りたい、それによってどう問題解決していくのかということがあるのかなと思うんですけども、私はアンケートについては会長おっしゃったように専門的なことはわからないので、なるほどなと思ってさっきの話を聞いたんですけども、そこで例えば私だと宝殿駅の近辺なので、逆に高砂の文化会館へ行くのは非常に行きにくいので、結局、商業なんかで言うと市外流出ですよ。あなたは満足してますかと、近隣の町で満足してるというケースもあるわけですよ。

ですから、例えばそういうことがここには全くなくて、ですから別に高砂市に求めている、自分がこの文化振興でいわゆる高砂市に求めなくても大丈夫なことと、高砂市でやってほしいというようなことがさっきの委員がおっしゃったように、小さなことなんかも含めて、何かその辺について、要はこのアンケート何のためにこのアンケートを聞いて、その設問に対して、これは現状を知りたいんですと。これは、問題を知りたいんですと。あるいは、その問題がわかってて、この問題を解決するためにどうしたらいいかを知りたいんですぐらいのところのおのおのの設問に、何かそういうものが考えられた上で、もし質問されておれば、非常に有意義なアンケートになるんじゃないかなというふうなことで、若干その辺は見てて、何か現状はそれわかるけど、それでどうですかというような質問が多いような気がするんですけど。

○会長

いかがでしょうか。

今、おっしゃることはよくわかりますけども、これ多分前つくったアンケートから引きずっておられるわけですね。前回、この文化振興施策をつくる場合につくられたアン

ケート。

これはちょっと私の、これ回るときにこの趣旨を読みながら思ったことなんですけども、でもこの振興計画というのか、振興の方針があるわけですね、環境、人づくりとかあれをやっぴり本来繁栄させなければいけないんだと思うんです。

つまり、人づくりというのはどう進んだと思いますかとか、環境づくりは進んでると思いますかとか、やっぱりそこら辺が本来この文化振興の政策を考える上での基本方針に基づく施策の進捗状況ですから、そこら辺は実はこれ、なかったなと思ったのが一番最初に思った感想なんです、実を言うと。

ただ、これ恐らくアンケートというのは、もう一つは前の調査との比較というのも大事なので、あんまり大きく変えてしまうのは難しいということはわかってはいるんですが、ちょっとそこら辺も本来であればちゃんと把握した上で、なおかつ要するに事務局の意図としては、この施策、方針ができる前の高砂市民の文化のなじみ度と、できた後の文化のなじみ度を知りたいので、なるべくあまり大きな質問の変化をさせたくないのだろうなというのはわかるんですけども、ただちょっと目的として、先ほど委員からの意見にもありましたけど、目的としてある、現状を知るだけじゃなくて課題も知るとか、この今の文化方針、基本方針を考えてきたものの評価を知りたいと思えば、ちょっとそこら辺が足りないかなというのは感じたところなので、ここで問題も整理したいので、全部を盛り込めばどんどん大きくなってしまいますから、一部は削りながら、でもこの部分は聞いておきたい。

例えば、この方針ができる前後で高砂市民の文化へのなじみ度がこんなに変わったよということが、ここが知りたいんだからここは残しておきたいというのは多分あると思う。その上で、先ほど言ったように文化振興政策方針に基づく施策にどう生かされたかというのは、やっぱり方針に基づいたアンケートの部分があってもいいのかな。ですから、そこら辺少し整理しなきゃいけないかなとは思ってます。

それから、課題の解決というところ、恐らくある程度課題をこちらが認識してなきゃいけないわけなんですけども、そのあたり何かもしご意見としてありましたら、このあたりを入れたら、その課題解決のことを聞けるアンケートになるんじゃないか。

○委員

具体的質問ですか。

ですから、先ほど言ったように、まずどこにそういうのを聞きに、市内ということになしに。

○会長

市外への流出ということ。

○委員

そうです。だから、近隣も含めて主に文化のそういうものはどこに聞きに行ってますかと。逆に高砂市で求めることはどんなことがありますか、例えばですね、そういうこ

とはちょっと聞かれておいたほうがいいんじゃないかなと。

○委員

このアンケートの中で、私一番に感じたのは、1ページの市民文化活動の意識というの、このほうから市内の施設の利用状況とか、それを求めているんじゃないか。それに対して、市民が利用したか、利用せえへんか、満足度か、それとも行ったことあるか、行ってへんか、そういうような何か過去にどうこうしたかいう、そういうようなアンケートのような気がして仕方ないんですね。

今後のことについて、ほんならどのようなことが一般的、今回広めるために、振興のために何を市民が求めているのかというような内容には乏しいような気がするんですね。

○委員

アンケートで聞かれて書いたからといって、じゃあそれ実現の方向にしてくれるのかなという、これは料金が高いと丸したら、安くしてくれるのかな、あるいは問8の文化芸術施設の整備・充実ですね。これ、そしたらこういうホールつくってほしいいうたらつくってくれるのかなと。

演目にしても、もちろん文化会館のほう、営業というかお客が入ってこの地域だからこういう出し物にしないとお客が入らないとか、割とまた偏ってくることもあるでしょうし、今年の歌舞伎なんかも遠方から非常にチケットも取りに来られたり、いい演目だったら姫路でもしてもここでもいっぱいになったりとか、何かそこら辺は営業、興行的なところとかかわってくるので、なかなか高砂市の行く方としては高砂市の文化会館だから行きたいとかそういうことでもないし、何かそのあたりもちょっとどうかなという感じはします。

○会長

ありがとうございました。

後、今の検討でも課題出して、まだちょっと時間はありますので、いろんな課題を出した上で、もうちょっと、私も相談のりますので、整理してある程度また形にしていきたいと思うので、ほかいかがでしょうか。

○委員

どう見たって、私これ見よったら、だんだんだんだん施設の利用のことについて、一生懸命問い合わせるみたいな気がして仕方ないですね。

○委員

1ページの問1なんかは、先ほど会長が言われた鑑賞と活動は別の質問がいいよというのはもちろんなんですけれども、そして、小さなところで鑑賞することは、多分生活の一部になっていると思うんですね。

だから、重要ではないんですね。もう一部になってますから、それが当たり前なんです。

だから、ここの質問の仕方でも活動を行ったりすること、どのように感じていますかというぐらいの書き方に変えていくとか、みんなが書きやすいように変えていかないといけないのではないだろうかと思います。

○会長

おっしゃるように、日常化してると重要とは思ってないかもしれない。

○委員

それから、テレビ、ネット、Y o u T u b e なんか、それはどんなふうに問いかけるかというところも、別項目で一つあげこむ必要があるんじゃないだろうかと思います。

○会長

ほかいかがでしょうか。

まだちょっと時間はありますので、今日これでまとめてこうしますというわけではなくて、少し課題出しを出して、場合によっては先ほど言ったように専門の事業者なんかも交えながら、ちゃんと形つくっていきたいとは思いますが、いかがでしょうか。

○委員

市のほうは、多分1回目にやったアンケートと、今回来年度やるアンケートの継続性で評価していかないといけないと、私も質問いたしましたらそう言われておりました。

ですから、それがわかるような評価部分と、新たにつけ加えていく部分をどのように持っていくかというところがすごく必要になってくると思います。

○会長

ほかはいかがでしょうか。何かご質問とかご意見。

これはつけ加えたほうがよろしいんじゃないかということでも結構だと思います。

これもう一遍確認だけなんですけど、前も電話でも問い合わせたんですけども、世帯ではなくて個人ですね、対象が。ですから、名前は何とかさんということで来るわけですね。その方にお答えくださいというのは、必ず明記をしてください。必ず、これ世帯のほうでいくと、例えば名前が来ても、それはお父さん書いといてとかってなってしまうと、非常にばらつきが悪くなるので、バランス悪くなるので、その指定された方がお書きくださいというような、そういうところは必ずいると思いますので。

難しんですよ、この世帯、どうしても世帯しか、住民基本台帳が世帯とか個人の名前ありますけども、どうしても届くのは家に届いてしまいますから、日本の場合、そこまできちっとパーソナリティというのを分けないといいますか、特にアンケートなんかだと、お前やっといってくれとか、お父さん書いといてとかというのはしょっちゅうあるので、そこら辺はちゃんと明確にここできちっと対象の方が書いてくださいということをお願いしたい。

ほかいかがですか、何かご意見とか。

よろしいですかね。

そうしますと、このアンケートにつきましては、今日最終結論を得るというのはちょ

っと難しいところがございます。

例えば、回答の仕方についても事前にご意見もいただいておりますので、こういうものの含めて回答率を上げるというところの工夫というのが、先ほど言ったように、これはノウハウもちょっとありますので、場合によっては事務局と私か、もしくはアンケートにたけた方がいるのもありますので、そういったあたり含めて少しご相談させていただいて、中身ですけども、先ほど委員がおっしゃっていただいたように、前回の調査との比較ができる部分というのは残しつつ、それから今の施策に基づく評価の部分でありますとか、委員がおっしゃった課題、新たな課題としてあるだろう部分でありますとかそういったもの、それから Y o u T u b e などいわゆる新しいと言いますか、若い方も回答しやすくなるような部分とか、そのあたりちょっと調整しながら整理していきたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

○委員

アンケートについては、それでいいんですけど、その質問の中に全般のところの2点目に書いてるんですけど、800名の方にアンケートを取るということと同時に、理解いただくのが大事だということで、つまりアンケートと同時に私たちにいただいている年度の実施計画のようなものの簡易版とか、そういうのでせっきやく800名の方にアンケート取るのであれば、その方に高砂市としてこういう文化の振興の基本条例ができてこういうことやってますよということ、せっきやくであればお知らせしたら、多分知らんことがたくさんあると思うので、こんなことも市はやってるんだなというのがわかると思うので、せっきやくであれば、許すのであれば本当は後でお礼かたがたで送るのが一番いいんですけど、ダメであれば封しといて、これを見たらまた話が変わってしまうと思うので、アンケートの内容変わるといことなんですけども、何か一緒に送れて文化振興を深めれたらなというふうな、もうちょっと考慮していただけたらと思います。

○会長

アンケート、おっしゃるように知っていただく機会でもあるというのは確かですので、何かそういった工夫ができるかもしれません。

逆に、事前だからと言ってそんな大きな影響はないかもしれません。見た上で考えてくださいというのも一つの方法です。必ずしもアンケートの取り方いろんな取り方があって、全く無垢な状態で取るのがいいという場合と、むしろ情報を与えた上で考えていただきたいということが的確なものであるという二つのケースがございます。

今回、前回調査との比較というふうな部分がどうしてもありますので、どうなのかなという議論当然あります。ただ、この振興方針を聞いたからといって、自分の今までの文化活動が急激に変わるわけではありませんから、事前に見たからと言って、多分比較の部分に関して大きな影響は受けないだろうと思います。そのあたりも含めて、少し考えたいと思います。

○委員

問3の内容なんですけど、分類の仕方がクラシック音楽、それから2、ポピュラー音楽、ジャズ、合唱の分け方なんですけど、3が吹奏楽がきてるんです。吹奏楽でもクラシックを演奏したり、ジャズを演奏したり、ポピュラー演奏したりするので、ちょっとこの分け方、ちょっと乱暴かなと思います。

○会長

これは私も感じたところですので、要するに、例えば鑑賞する場合も、する場合とまた同じような文面ですね。これもやっぱりいかななものかと思いますよね。

それから後、講演とかシンポジウムは鑑賞に当たるのかどうかとか、中身を言い出したらいろいろあると思うんです。講演のシンポジウムを鑑賞しましたとは言わないので、ですからそこら辺は整理していかなきゃいけないだろうと思うんです。鑑賞の学びの違いとかも出てきますので、確かにこのあたり難しいですよ。俳句とかってどうやって鑑賞するのか、ちょっと難しいなと思います。

またご意見を、細かいところで、特に音楽のところこういう分け方よりもこれがいいというのがあれば、またご指摘くださいますかね。

ほかいかがですか、何かございませんか。

よろしいでしょうかね。

そうしましたら、結論が出ないままで終わってしまうのも申し訳ないんですが、いろんなご意見いただきましたので、そういうものもちょっと反映しながら、よりよいアンケートをつくっていきたいと思います。

回答しやすく回収率を上げていく。そして、目的に合ったものにしていくというのが大事なところでございます。いろいろと事務局のほうもいろいろご苦労あると思うんですけども、一緒に何とかしていきたいというふうに思います。

そうしましたら、時間通りになりましたので、その他の部分で今後のスケジュールについてということで、事務局のほうからお願いできますでしょうか。

○事務局

平成26年度の2回目の審議会は、11月の第3週目ぐらいを考えておりますが、いかがでしょうか。3週目か4週目。17日の週です。前年度は11月20日に開催しました。

(日程調整)

○事務局

そうしましたら、17日、21日、28日、この3日間で早目に決めてまたご連絡させてもらいます。

次回なんですけれども、次はこの市民アンケートが修正できていましたら、それについて見ていただきたいと思ってますし、平成27年度、次年度の事業について、皆さんに協議していただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○会長

ではすいません、いろいろとご議論いただきましてありがとうございました。

それでは、本日の議事全て終了ということでございますので、事務局のほうに司会のほうをお渡しいたします。

○事務局

それでは最後に、副会長から閉会の挨拶をお願いします。

(副会長 あいさつ)

○事務局

それでは、これにて閉会いたします。

ありがとうございました。

(午後 4時55分 閉会)